



平成29年度 医療経済研究機構自主研究事業

健康医療情報を活用した 受療行動と労働損失に関する研究 報告書

平成30年3月



調査研究体制

【主任研究者】

佐方 信夫 医療経済研究機構 研究部 主任研究員

【分担研究者】

清水 沙友里 医療経済研究機構 研究部 主任研究員

【研究協力者】

原田 径子 医療経済研究機構 企画調査部 部長

本研究の遂行にあたっては、分担研究者、研究協力者およびデータをご提供いただいた健康保険組合の皆様に多大な協力を頂きました。心からお礼申し上げます。

主任研究者
佐方 信夫

目次

第1章	本研究の概要	1
第2章	健保組合員に対するアンケート調査と健康医療情報を連結させた分析	5
第3章	健保組合レセプトデータと健康診断情報を用いた分析	31
第4章	まとめ	39
参考資料1	アンケート調査票	45
参考資料2	アンケート調査結果 単純集計表	53

第 1 章 本研究の概要

第1章 本研究の概要

1 背景と目的

現在、日本では保険者が主体的に保健介入して、被保険者の健康を保つことが求められている。この一つとして、保有している健康医療情報を用いて計画を策定、介入する“データヘルス”の実施が推進されている。

一方で、近年プレゼンティーズム^{*1}やアブセンティーズム^{*2}といった、健康を損なうことによる労働損失に係る研究が注目されている。これらの損失を明らかにし、労働者の健康を保つことがどれほどの価値を創出しているのかを認識することが重要視されている。

これらを踏まえ、本研究では企業健保組合の保有するレセプトデータや健康診断データを用いて、データヘルスの一環として、疾患における受療行動・治療内容や労働損失を明らかにすることを目的とする。

*1 プレゼンティーズム：労働者の病気や外傷による生じる、勤務中の労働遂行能力の低下により失われた労働時間

*2 アブセンティーズム：病気や外傷による欠勤により失われた労働時間

2 調査研究の構成

本調査研究では、1) 健康保険組合員（健保組合員）に対するアンケート調査とその他の医療情報を連結させて行う分析、2) 健保組合員のレセプトデータと健康診断の情報を連結して行う分析の2部から構成されている。

1) 健保組合員に対するアンケート調査とその他の医療情報を連結させて行う分析

① 風邪についてのアンケート調査と分析

本研究にご協力いただいた健保組合加入者に対して、スマートフォン上のアプリを用いて風邪に関するアンケート調査を行った。アンケート調査では、風邪による受療行動等（受診・服薬・罹病期間など）およびプレゼンティーズム、アブセンティーズムに関する質問を行い、回答を集計した。集計データを用いて、統計解析を行い、風邪の罹患や受療行動に関連する要因の検討および風邪によるプレゼンティーズム、アブセンティーズムの解析を行った。

② アンケート調査と他の医療情報を連結させたデータベースによる分析

①で集計したアンケート調査と健保組合が保有する加入者の属性情報および健診情報を連結して、属性や健診結果・生活習慣と風邪の罹患が関連しているかについて分析を行った。

2) 健保組合員のレセプトデータと健康診断の情報を連結して行う分析

健保組合のレセプトデータから風邪の罹患に関するレセプトを抽出し、個人属性との連結による、罹患者の年齢分布、性別、健診結果との関連などを分析する。これにより、健保組合加入者の風邪による受診を把握することができ、上記アンケート調査の結果・分析を補完する。また生活習慣と風邪による受診の関連についても分析を行う。

健康医療情報を活用した
受療行動と労働損失に関する研究 報告書
平成 30 年 3 月

発行

一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会
医療経済研究機構

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-5-11 11 東洋海事ビル

TEL : 03 (3506) 8529

FAX : 03 (3506) 8528

本報告書の全部又は一部を問わず、無断引用、転載を禁じます。

PJ No. 17305